

# 平成20年度 第2回愛媛県公共事業再評価委員会 議事録〔要旨〕

## 1 開 会

## 2 審 議

### (1) 審議方法及び個別審議箇所の抽出

- ・ 第2回委員会は、林道事業、海岸事業、砂防事業及び中予地域以外の公共下水道事業の26件について審議する。
- ・ 個別に審議が必要と思われる5事業を個別審議として選定し、残り21事業については一括審議とする。
- ・ 第2回委員会の個別審議箇所は、事前に各委員からの意見により決定した次の5事業を選定する。
  - 通常砂防事業〔(砂)薬師谷川〕
  - フォレスト・コミュニティ総合整備事業〔林道 加茂角野線〕
  - フォレスト・コミュニティ総合整備事業〔林道 広見日吉線〕
  - 今治港海岸(高潮)事業
  - 公共下水道事業〔東丹処理区〕

### (2) 個別審議

#### ・ 通常砂防事業〔(砂)薬師谷川〕

#### < 審 議 >

##### 【砂防課】

- ・ 地域の概要、事業概要、事業の経緯及び進捗状況、事業の必要性及び効果、事業の評価、今後の対応方針等を説明。

##### 【柏谷委員長】

- ・ 地図混乱地区であったため公図訂正に長期を要し、事業の着手が遅れたとのことであるが、現地での聞き取りを行えば、ある程度事前に分かったことではないのか。

##### 【砂防課】

- ・ 地元にも聞き取り調査を行うが、砂防堰堤箇所が決まってから、買収する用地を決めるので事前に分からなかったものである。

##### 【柏谷委員長】

- ・ 具体的な土地の境界は測量しないと分からないが、あらかじめこの辺りは土地の境界が未確定であるというのは分かったのではないのか。

##### 【砂防課】

- ・ 地図混乱地区というのも事前には分からなかった。

##### 【三好委員】

- ・ 本事業箇所の薬師谷溪谷への観光客数が年間約25,000人とあるが、費用対効果分析にどの位計上されているのか。

##### 【砂防課】

- ・ 観光客数による経済効果等については、費用対効果分析には計上していない。便益に計上しているものは、家屋被害、事業所被害、農作物被害、公共土木施設及び人

的被害である。

## <審議結果とりまとめ>

### 【柏谷委員長】

- ・ 本事業については「事業継続」としてよいか。（全員異議無し）

## ・ フォレスト・コミュニティ総合整備事業〔林道 加茂角野線〕

## <審議>

### 【林業政策課】

- ・ 地域の概要、事業概要、事業の経緯及び進捗状況、事業の必要性及び効果、事業の評価、今後の対応方針等を説明。

### 【長井委員】

- ・ アクセス短縮等便益ということで、森林浴等のために森林へ到達する走行時間又は経費縮減の効果を計上しているが、同じフォレスト・コミュニティ総合整備事業でも計上していない事業もある。本事業箇所は森林浴をする森林があるのか。
- ・ 森林浴に訪れる人はそれほど多くないと思われるため、このような便益は計上しない方がよいのではないか。
- ・ 林道を計画する場合、できるだけ質のよい木の生えているところに、林道を設置していく方がより効果が大いと思われるが、どのような計画で林道を設置しているのか。

### 【林業政策課】

- ・ アクセス短縮等便益については、事業を実施する区間内に、滝、森林公園や史跡等がある場合に計上している。
- ・ 受益効果の高い山だけに林道を設置するのではなく、人工林の面積、既設林道とのアクセス、さらには受益効果も高くなるよう考慮して、整備する必要がある山も含めて一体的に林道整備を実施している。

### 【櫻井委員】

- ・ 事業期間が昭和62年から平成28年までで、現在、事業費進捗率が63%、開設延長が60%であるが、あと8年で事業が完成できるのか。また、施工管理について、行程表のようなものを作成して検討されているのか。
- ・ 事業が長期化している理由に「1年間の施工延長に限度がある」とあるが、どういう意味なのか。

### 【林業政策課】

- ・ 本線は工事の実施区間が5工区あり、各々で工事が実施できるため、予算的には厳しい状態ではあるが、十分に完成できると考えている。全体的な行程は、各出先機関で確認している。
- ・ 本箇所は、かなり傾斜が急なところが多いため、開設費用に26万円/m程度単価となり、事業費との関係で1年間の施工延長に限度がある。

### 【矢川委員】

- ・ 費用対効果分析手法で便益期間は40年間との説明であるが、各便益項目の計算では、便益期間を56年間で計算を行っているのはなぜか。
- ・ 平成16年の災害にかかる復旧費は、今回の事業費の中に反映されたものとなっているのか。

**【林業政策課】**

- ・ 山が安定するまでの15年間と林道の路面の耐用年数である40年間を足して56年間としている。
- ・ 災害の復旧にかかる費用に関しては、別途対応ということで事業費の中には含まれていない。

**【柏谷委員長】**

- ・ 平成16年の災害は、本事業の進捗に影響を与えていないのか。

**【林業政策課】**

- ・ 非常に影響を受けている。

**【柏谷委員長】**

- ・ 前回の平成15年度の再評価時と比べて、完了予定年度が変わっていない。これは、災害はあったが事業には関係ないということなのか、それとも今後完了予定年度が延びていくということなのか。

**【林業政策課】**

- ・ 厳しい財政状況も含め、今後の進捗を見ながら期間について検討していきたい。現段階では、平成28年の完了に向けて鋭意努力したい。

**【柏谷委員長】**

- ・ 現実に災害に対する遅れが生じており、予算も減少してきているので、少なくとも今回の再評価において、完成予定については考慮しておく必要があったのではないかと。

**【林業政策課】**

- ・ 事業量的には予定どおり完成できる見通しを持っていたが、委員長の指摘について、もっと検討すべきであった。

**【関委員】**

- ・ 毎年開催される期成同盟会から事業の強い要望があるとの説明であるが、期成同盟会はどのくらいの組織率、人数で開催されているのか。

**【林業政策課】**

- ・ 約30人位である。メンバーは、地元市町、議長、県会議員及び土地所有者であり審議をいただいている。

**【関委員】**

- ・ 公共事業であるべきものは、やはり公共性というものを強く意識し、それが分かる事業であってほしい。
- ・ 事業の目的の一部である「地域住民の交流」、「生活環境の改善」も確かに大事であるが、算出されている便益に値するものなのか疑問である。
- ・ 林業の振興といった事業の必要性を強く説明しないと、所有者のための事業になりかねないので、事業の採択は慎重に行ってほしい。
- ・ 事業をここで中止するということは難しいと思われるので完成させてほしい。

**<審議結果とりまとめ>****【柏谷委員長】**

- ・ 本事業については「事業継続」としてよいか。（全員異議無し）
- ・ 完成予定が延びるということは、その間、事業に携わる職員に給料が支払われているわけであるから、県民あるいは国民からするとその分だけコストは上がっている

ことになり、大変大きな問題点である。

- ・ P F Iであるならば人件費はすべてコストに含まれることとなるが、今の費用対効果分析では、コストに人件費が含まれていないため、公共事業評価の大きな問題点である。
- ・ 今後の事業の進捗について、状況をよく見極めた上で、きちんとした計画を立て、また事業費についてもどんどん減っていくことは十分に予想できるため、それに対する対応も真剣に考えいただきたい。

## ・ フォレスト・コミュニティ総合整備事業〔林道 広見日吉線〕

### <審議>

#### 【林業政策課】

- ・ 地域の概要、事業概要、事業の経緯及び進捗状況、事業の必要性及び効果、事業の評価、今後の対応方針等を説明。

#### 【三好委員】

- ・ 法面保護工の対策工が必要になり事業が長期化しているとあるが、全体事業費の中に法面保護工の費用は含まれているのか。

#### 【林業政策課】

- ・ 含まれている。

#### 【三好委員】

- ・ 事業は長期化しているが、期間内に全体事業費の範囲内で完成できるのか。

#### 【林業政策課】

- ・ 今のところ期間内に全体事業費の範囲内で完成できると考えている。しかし、法面保護については、山を切ってみないと分からない部分があるので、簡易に緑化できる法面もあれば、逆に吹付工が必要な法面も出てくる。

#### 【三好委員】

- ・ 完成後に事業費がオーバーしていたということもあり得るのか。

#### 【林業政策課】

- ・ そうなる可能性はある。

#### 【三好委員】

- ・ 事業費の範囲内で鋭意努力してほしい。

#### 【青野副委員長】

- ・ 前回の平成15年度再評価と比べて、費用対効果分析の総便益が約45億から約55億に増加しているが、これは何が増えたことによるものか。

#### 【林業政策課】

- ・ 費用対効果分析における基準年が替わったことによる結果であり、特に増えたという項目はない。

#### 【柏谷委員長】

- ・ そのようなことはあり得ない。そのために社会的割引率を用いている。

#### 【青野副委員長】

- ・ 事業の進捗が遅れているため、当然、費用対効果分析における総費用は増えるのであるが、同様に総便益も増えている。この増えた理由は何であるのか。特に理由がなければ構わない。

**【柏谷委員長】**

- ・ 総便益の構成を見ると、森林整備促進便益が大部分を占めており、この便益の内容は、洪水防止や流域貯水等となっている。このような項目は、測定するのが難しいが、全国共通のマニュアル値を使っているのか、それとも現地で実験とかを実施して検討を行っているのか。

**【林業政策課】**

- ・ 林野庁の方で出している全国共通のマニュアルの数値を用いており、特に現場の方で実験等は行っていない。

**【柏谷委員長】**

- ・ 整備前後の流出係数や貯留率などは、地形、土壌、気温、気候によって相当変わるものなのではないか。

**【林業政策課】**

- ・ 四国の中でも、例えば重信川流域といった細かい数字を林野庁の方からいただいているので、一応地域を配慮した形になっている。

**<審議結果とりまとめ>****【柏谷委員長】**

- ・ 本事業については「事業継続」としてよいか。（全員異議無し）

**・ 今治港海岸（高潮）事業****<審議>****【今治市】**

- ・ 地域の概要、事業概要、事業の経緯及び進捗状況、事業の必要性及び効果、事業の評価、今後の対応方針等を説明。

**【柏谷委員長】**

- ・ 平成19年度末現在で事業進捗率が44.8%で、完成予定年度が平成25年度ということであるが、今年度の予算はどれ位なのか。

**【今治市】**

- ・ 1億5千万円である。

**【柏谷委員長】**

- ・ その程度の金額では、平成25年度までに完成できないのではないかと。

**【今治市】**

- ・ 現在、今治市においては、港湾事業において大きなプロジェクトを2つ整備している。1つは年間5億円程度の予算を要求しており平成22年度完成予定、もう一方は年平均4.5億円の予算要求をしており平成23年度完成予定である。このため、本事業を平成22年程度から重点的に投資していく予定である。

**【柏谷委員長】**

- ・ 非常に進捗率が低く心配であるが、再度再評価を受けなくていいようお願いしたい。

**【今治市】**

- ・ 市としては、予算確保の見通しは何とか立つが、今後、国の財政状況等も勘案しながら予算確保に努めてまいりたい。

**【矢川井員】**

- ・ 一般資産等被害額を算出する際の一世帯あたりの家庭用品評価額が、他の事業の市町と比べて、今治市は300万円ほど高くなっているがどのように設定しているのか。

#### 【今治市】

- ・ 治水経済マニュアルに1世帯あたりの家庭用品平均評価額が出ており、これに総務省の統計及び愛媛県の統計から求めた今治市の低減率約77%をかけて今治市の1世帯あたりの家庭用品評価額を算出している。

#### <審議結果とりまとめ>

#### 【柏谷委員長】

- ・ 本事業については「事業継続」としてよいか。（全員異議無し）

#### ・ 公共下水道事業〔東丹処理区〕

#### <審議>

#### 【西条市】

- ・ 地域の概要、事業概要、事業の経緯及び進捗状況、事業の必要性及び効果、事業の評価、今後の対応方針等を説明。

#### 【長井委員】

- ・ 便益に水路覆蓋化にかかる費用が39.6%とかなりの部分を占めているが、この費用は、既に覆蓋されているものを再度やり直すのに要する費用なのか、それともこれから覆蓋するのに要する費用なのか。

#### 【西条市】

- ・ 現在、公共下水道で計画している区域内の水路の覆蓋を最初から行った場合の費用である。

#### 【柏谷委員長】

- ・ 覆蓋費とはどういう費用なのか。この便益は、公共下水道が整備されなかった場合の代替事業として必要であるから計上しているわけであるが、具体的にどういうものなのか。

#### 【西条市】

- ・ 水路には生活雑排水が流れ込むことから、それらの悪臭や害虫の発生を防止するための覆蓋ということで、周辺環境の改善効果として計上している。

#### 【柏谷委員長】

- ・ 現在は、公共下水道が整備されていないから覆蓋も清掃もされていない状況なのか。

#### 【西条市】

- ・ 公共下水道が整備されているところでは、水路の清掃とかはなくなっている。

#### 【柏谷委員長】

- ・ 公共下水道が整備されていないところでは、現在、水路に覆蓋はしていないのか。

#### 【西条市】

- ・ 覆蓋は行っていないところが多い。

#### 【柏谷委員長】

- ・ 現在、公共下水道が整備されていないところでは、多少悪臭があるかもしれないが苦情もなく我慢できる程度であるならば、覆蓋化する必要はないのではないのか。

#### 【長井委員】

- ・水路の覆蓋化を計上しなければ、当然B / Cの値は減少するのではないか。

#### 【西条市】

- ・総便益が下がるので、減少することとなる。

#### 【三好委員】

- ・工事着手してから25年間で進捗率が25.6%であるが、残りの事業期間30年間で完成させることはできるのか。

#### 【西条市】

- ・本処理区の進捗率が低い理由の1つは、工業専用区域を除く、用途地域以外を含めた広い範囲を全体区域と設定しているためである。しかし、用途地域内は、約76%の進捗率であり、比較的順調に都市施設としての整備は進んでいる。今後は、平成16年11月の市町村合併で、事業主体が旧市町の事務組合から新西条市に移行したことにより、一層の建設コスト縮減、財源確保に努めて完成させたい。

#### 【柏谷委員長】

- ・旧西条市の西条処理区と比べて、本処理区は計画処理人口が少ない割に計画処理面積が非常に広いと、公共下水道事業としては、西条処理区に比べて効率性が悪いといわざるを得ない。特に総費用の内訳で管渠等建設費が約60%を占めているが、財政的に西条処理区と比べて非常に苦しいのではないか。

#### 【西条市】

- ・西条処理区と比べて集落が散在しているため、苦しい点があるのは事実である。公共下水道事業については、全体計画が定められてはいるが、5年から7年間で事業を実施する区域として、事業認可を受けながら事業区域を拡大するという手法で整備を進めているため、人口の見通しや集落形成の変化を反映し、全体計画を見直しながら効果的な事業手法を進めていくこととしたい。

#### 【青野副委員長】

- ・本処理区のように、人口がまばらで特にこれからの人口減が考えられるときに、進捗率が低いもとの、公共下水道をすべてに整備していくことが望ましいかどうか再検討する必要がある。
- ・水路の覆蓋化における費用の算出については、既に水路が覆蓋している箇所も、もう一回やり直すということなのか、それとも覆蓋していない箇所に新たに覆蓋するという事なのか。
- ・合併浄化槽であるが水路に覆蓋しなくても問題ない、あるいは、覆蓋しない方が望ましいということもあるため、全水路を覆蓋して、それを費用化するのはどういう意味なのか。

#### 【西条市】

- ・水路の覆蓋化の費用については、蓋の有無に関わらず全ての水路を覆蓋するとして算出している。
- ・水路にきれいな水が流れている場合、せせらぎとしての潤いの効果もあるため、覆蓋しない方がよいとは感じる。ただし、費用対効果分析の考え方として、単独浄化槽を設置した場合、未処理の生活雑排水による水路の害虫・悪臭発生を防止するのが、覆蓋であるという考え方をしている。

#### 【青野副委員長】

- ・今の説明では代替費用ということにはならないと思うが、マニュアルでそうなって

いるということなのか。

#### 【西条市】

- ・ その通りである。

#### 【都市整備課】

- ・ 公共下水道と合併浄化槽の整備手法については、各処理区で比較設計を行い決定している。本処理区については、将来的に人口減少等が進む中で、端部においては、今後、見直しをする必要がある。
- ・ 覆蓋の説明については、単独浄化槽と比較した上で、家庭排水等の汚水が水路に流れている状態を、完全に公共下水道が整備された状況までに住環境を向上させるためには、全ての水路に蓋をかけ、また蓋をはずして清掃を行う必要がある。少し馴染みにくい点はあるが、こういったことを代替施設として便益と考えている。

#### 【柏谷委員長】

- ・ 生活実感からすれば、あまりよく分からないというのが全委員の共通した意見であると思う。
- ・ 他の市町の総便益に占める水路覆蓋化の便益が2割前後であるのに対して、本処理区は4割となっている。これは、計画処理面積が広く集落から海までの水路延長が非常に長くなっているため、他の市町に比べると異常であると思われ、果たして計画処理面積全てを公共下水道で整備するのがいいのか疑問に感じる。
- ・ 一般的に考えて、今後、下水道事業費が増加していくという状況は考えにくい状況であるので、今後の社会状況、財政状況を見極めた上で、柔軟に対応して、計画の見直しも場合によっては行ってほしい。

#### <審議結果とりまとめ>

#### 【柏谷委員長】

- ・ 本事業については「事業継続」としてよいか。（全員異議無し）

### (3) 一括審議

#### <審議>

(特に意見無し)

#### <審議結果とりまとめ>

#### 【柏谷委員長】

- ・ 一括で審議した21事業について「事業継続」としてよいか。（全員異議無し）

### 3 閉会のあいさつ

### 4 閉 会